



無園児* 家庭の孤独感と 定期保育ニーズに関する 全国調査

* 普通保育所・幼稚園等に通園していない就学前の児童のこと

2022.6.15

新しいあたりまえを、すべての親子に。

Florence

認定NPO 法人フローレンス

調査実施概要

< 保育所等の利用ニーズに関する調査・分析 >

委託事業者： 株式会社日本総合研究所
リサーチ・コンサルティング部門
ストラテジー&オペレーショングループ

実施概要： ①未就園児（無園児）をもつ保護者向けアンケートを実施し、
子育ての現状及び定期保育サービスの利用ニーズを調査
②未就園児（無園児）家庭の利用希望率及び利用頻度毎に
利用パターンを設定し、パターンごとに**保育所等の
キャパシティ及び必要財源**を試算

アンケート調査概要

項目	内容					
調査名称	定期的な保育サービスを利用していない家庭における保育所等の定期利用ニーズに関する調査					
調査目的	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園、幼稚園等定期的な保育サービスを利用している家庭と利用していない家庭の実態把握 ・ 定期的な保育サービスを利用していない家庭の保育所等の利用ニーズの把握 					
調査方法	インターネット上での回答					
調査期間	2022年3月3日(木)～3月7日(月)					
調査対象	全国のGMOリサーチパネルのうち、長子が未就学児の保護者（父親又は母親）					
調査対象者数	2000件					
調査対象者数 内訳	長子の学年及び定期サービス利用状況					
	項目	n	0歳児 2020/4/2～202 2年生まれ	1歳児 2019/4/2～202 0/4/1生まれ	2歳児 2018/4/2～201 9/4/1生まれ	3～5歳児 2015/4/2～201 8/4/1生まれ
	定期サービス利用者	800	200	200	200	200
	定期サービス未利用者	1200	300	300	300	300
	全体	2000	500	500	500	500

※1番上の年齢の子どもが「保育所や幼稚園等の施設を定期的に利用している」と回答した数を「定期サービス利用者」、「保育所や幼稚園等の施設を定期的に利用していない」と回答した数を「定期サービス未利用者」としてカウント。

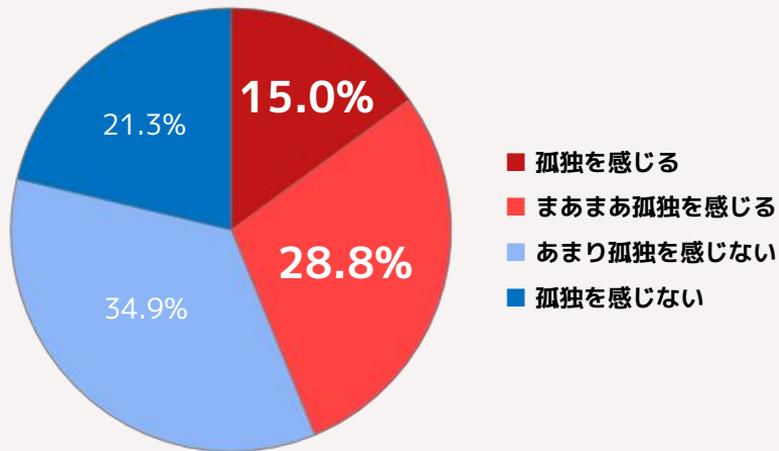
未就園児（無園児）家庭の孤独感について

調査結果サマリー | アンケート調査

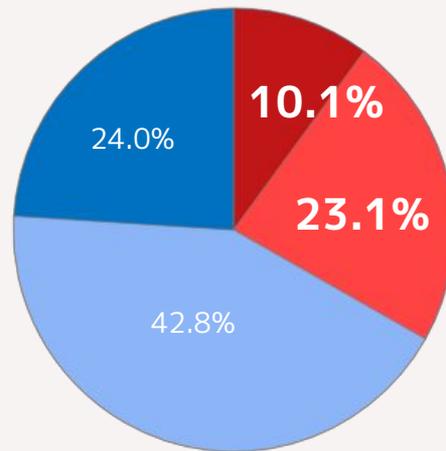
未就園児（無園児）家庭の方が親が子育てで孤独を感じやすい

未就園児（無園児）をもつ家庭の方が「子育ての中で孤独を感じる」と回答した割合が10ポイント程度高かった

< 保育園等未利用者 >



< 保育園等利用者 >



調査結果サマリー | アンケート調査

親が低年齢の無園児家庭ほど孤独感が高い

未就園児（無園児）をもつ低年齢家庭は、「子育ての中で孤独を感じる」という回答の割合が高かった

定期サービスの利用状況・母親の年齢 × 親の孤独感（子育ての中で孤独を感じる）

	n	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない	(再掲) あてはまる / ややあてはまる	(再掲) あまりあてはまらない / あてはまらない
定期サービス利用者							
10代	3	0.0%	33.3%	66.7%	0.0%	33.3%	66.7%
20代	166	12.0%	25.3%	40.4%	22.3%	37.3%	62.7%
30代	482	9.8%	21.2%	42.7%	26.3%	30.9%	69.1%
40代以上	122	8.2%	22.1%	47.5%	22.1%	30.3%	69.7%
定期サービス未利用者							
10代	7	42.9%	14.3%	28.6%	14.3%	57.1%	42.9%
20代	240	18.3%	32.1%	29.2%	20.4%	50.4%	49.6%
30代	738	14.2%	29.4%	35.9%	20.5%	43.6%	56.4%
40代以上	180	10.6%	24.4%	38.9%	26.1%	35.0%	65.0%

調査結果サマリー | アンケート調査

子育てで孤独を感じている家庭ほど定期保育サービスの利用意向が高い

「子育ての中で孤独を感じる」と回答した家庭ほど、
そうでない家庭と比べて定期保育サービスを「利用したい」割合が高かった

親の孤独感（子育ての中で孤独を感じる）× 定期保育サービスの利用意向（単一回答）

	n	とても 利用したい	まあ 利用したい	どちらでも ない	あまり利用 したくない	まったく利用 したくない	(再掲) とても 利用したい/ まあ利用したい
あてはまる	180	36.7%	33.9%	20.6%	6.7%	2.2%	70.6%
ややあてはまる	345	24.6%	33.0%	27.5%	8.7%	6.1%	57.7%
あまりあてはまらない	419	19.3%	35.3%	30.8%	7.9%	6.7%	54.7%
あてはまらない	256	21.5%	26.2%	24.2%	11.7%	16.4%	47.7%

調査結果サマリー | アンケート調査

リスク行動が見られる家庭ほど定期保育サービスの利用意向が高い

「子どもに手をあげてしまいそうなことがある」「子どもを怒鳴ってしまうことがある」と回答した家庭ほど、そうでない家庭と比べて定期保育サービスを「利用したい」割合が高かった

虐待リスク（子どもに手をあげてしまいそうなことがある）× 定期保育サービスの利用意向（単一回答）

	n	とても利用したい	まあ利用したい	どちらでもない	あまり利用したくない	まったく利用したくない	(再掲)とても利用したい/まあ利用したい
あてはまる	145	46.2%	28.3%	15.2%	7.6%	2.8%	74.5%
ややあてはまる	357	23.0%	33.3%	30.5%	7.0%	6.2%	56.3%
あまりあてはまらない	326	21.5%	31.9%	29.8%	8.9%	8.0%	53.4%
あてはまらない	372	18.3%	33.9%	25.5%	10.8%	11.6%	52.2%

虐待リスク（子どもを怒鳴ってしまうことがある）× 定期保育サービスの利用意向（単一回答）

	n	とても利用したい	まあ利用したい	どちらでもない	あまり利用したくない	まったく利用したくない	(再掲)とても利用したい/まあ利用したい
あてはまる	264	36.0%	29.5%	19.3%	10.6%	4.5%	65.5%
ややあてはまる	436	25.9%	33.0%	29.1%	6.2%	5.7%	58.9%
あまりあてはまらない	289	13.1%	39.1%	29.4%	10.4%	8.0%	52.2%
あてはまらない	211	19.4%	26.1%	28.4%	9.5%	16.6%	45.5%

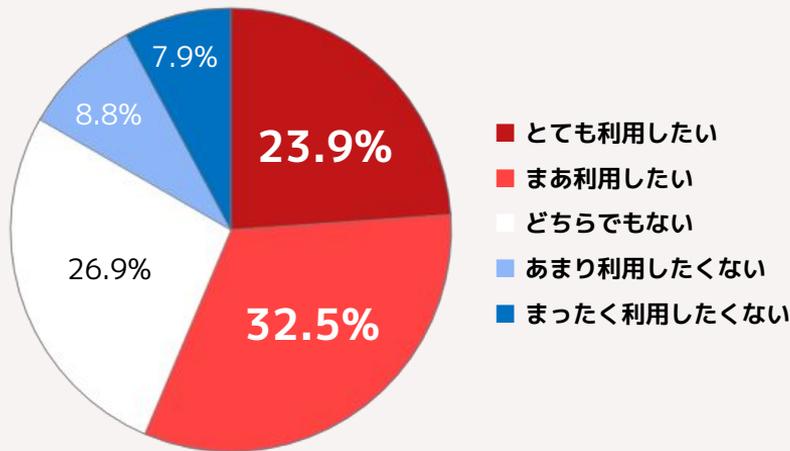
未就園児（無園児）家庭の保育サービスの利用実態・ニーズ

調査結果サマリー | アンケート調査

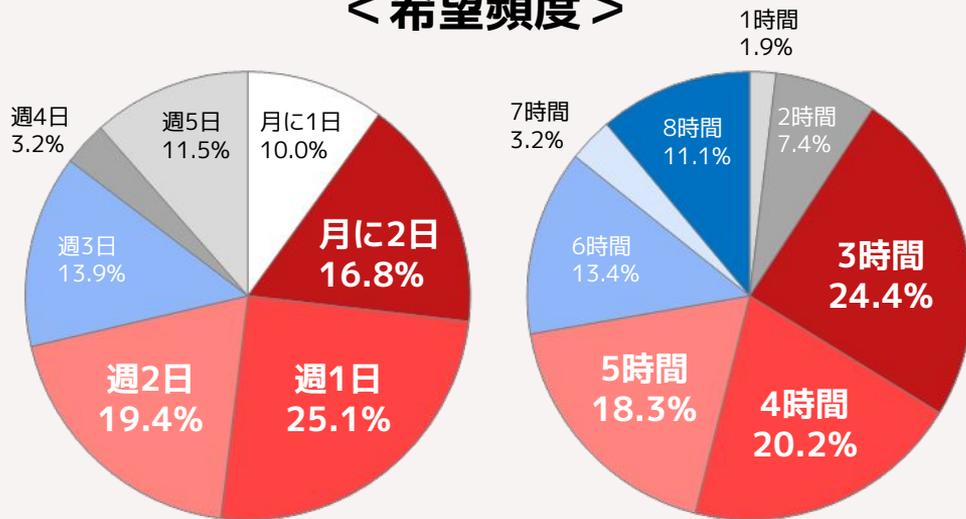
未就園児（無園児）をもつ家庭の過半数が**定期保育サービスの利用を希望している**

利用したい場合の希望頻度としては、週1~2日、1回あたり3~5時間が多く、通常の定期保育サービスより低頻度・短期間での利用ニーズであることが伺える

<利用意向>



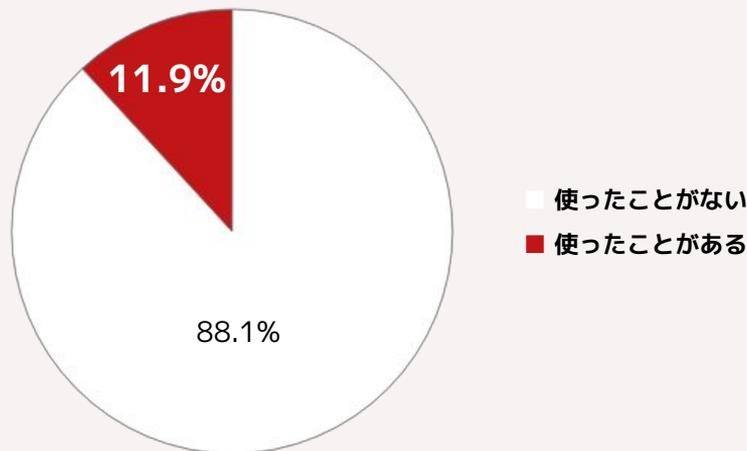
<希望頻度>



未就園児（無園児）家庭の一時預かりサービス利用経験者は 1割強にとどまる

既存の一時預かりサービスは、子育て支援の受け皿として十分機能していない可能性がある

<一時預かりサービス利用>



子どもへの愛着度×定期保育サービスの利用意向の相関

調査結果サマリー | アンケート調査

子どもへの愛着度が低い家庭ほど定期保育サービスの利用意向が低い

「子どもがかわいくてたまらない」に対して「あてはまらない」と回答した利用者ほど定期保育サービスを「利用したい」割合が低かった

子どもへの愛着度（子どもがかわいくてたまらない）× 定期保育サービスの利用意向（単一回答）

	n	とても利用したい	まあ利用したい	どちらでもない	あまり利用したくない	まったく利用したくない	(再掲) とても利用したい / まあ利用したい
あてはまる	671	26.1%	33.4%	24.0%	9.4%	7.2%	59.5%
ややあてはまる	371	23.2%	36.1%	28.0%	7.8%	4.9%	59.3%
あまりあてはまらない	111	19.8%	21.6%	42.3%	6.3%	9.9%	41.4%
あてはまらない	47	8.5%	17.0%	23.4%	12.8%	38.3%	25.5%

保育ニーズに関する推計（キャパシティ試算）

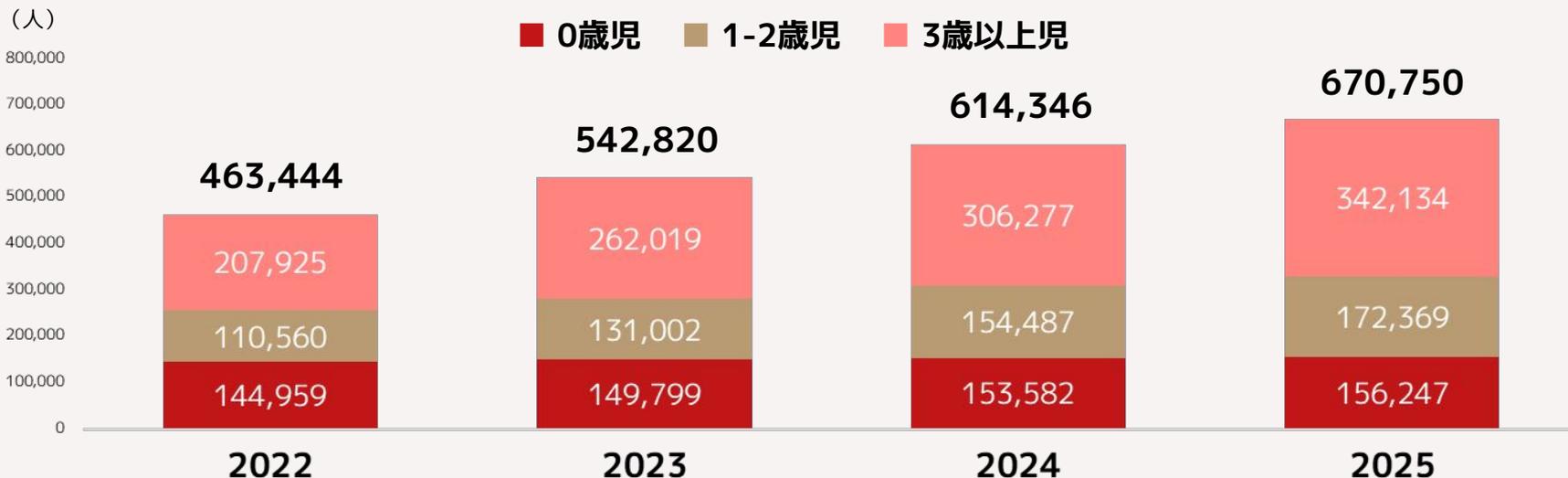
調査結果サマリー | 保育ニーズに関する推計調査

保育所等空き定員数は今後も継続的に増加することが見込まれる

2022年時点ですでに計46万人程度の空きがあり、その後も増加傾向である。

待機児童が多く発生していた0歳児、1・2歳児においても、今後継続してそれぞれ10万人超の空き定員数が見込まれる

< 学年別保育所等空き定員数 >



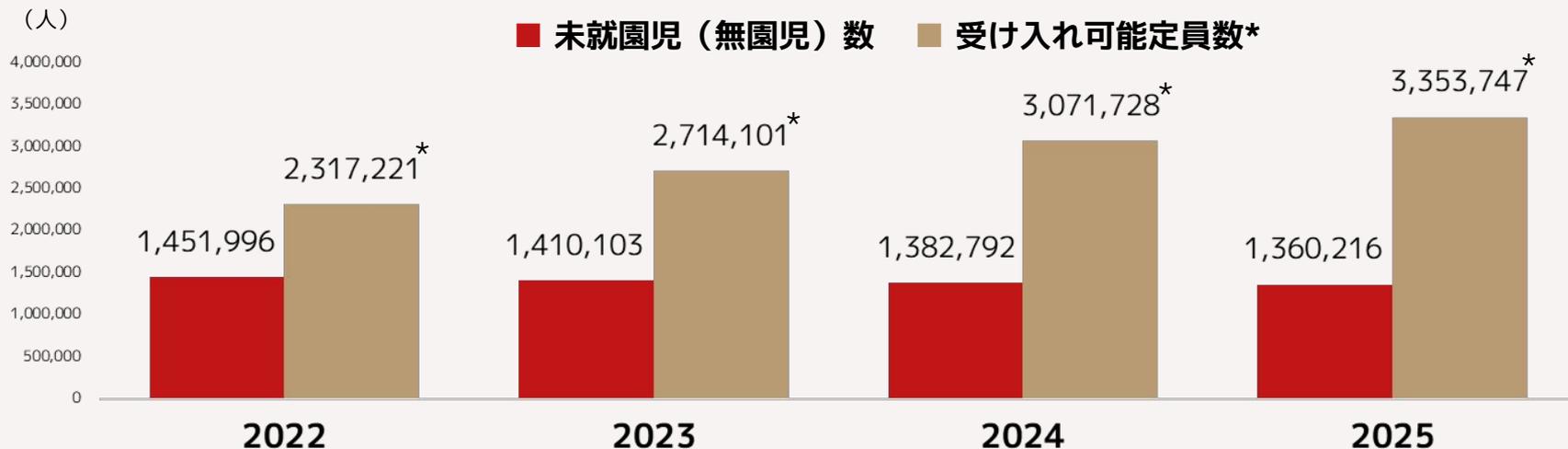
調査結果サマリー | 保育ニーズに関する推計調査

保育所等空き定員を利用して、すべての未就園児（無園児）が週1日通うことが可能

地域及び学年区分を加味しない場合、

2022年度時点で既に未就園児（無園児）計145万人全員（週1回利用）を受け入れることが可能な状況である

< 未就園児（無園児）及び受け入れ可能定員数（0～5歳児合計） >



*受け入れ可能定員数とは、未就園児が週1回通うことを前提に、保育所等空き定員数×5で計算

保育ニーズに関する推計（財源試算）

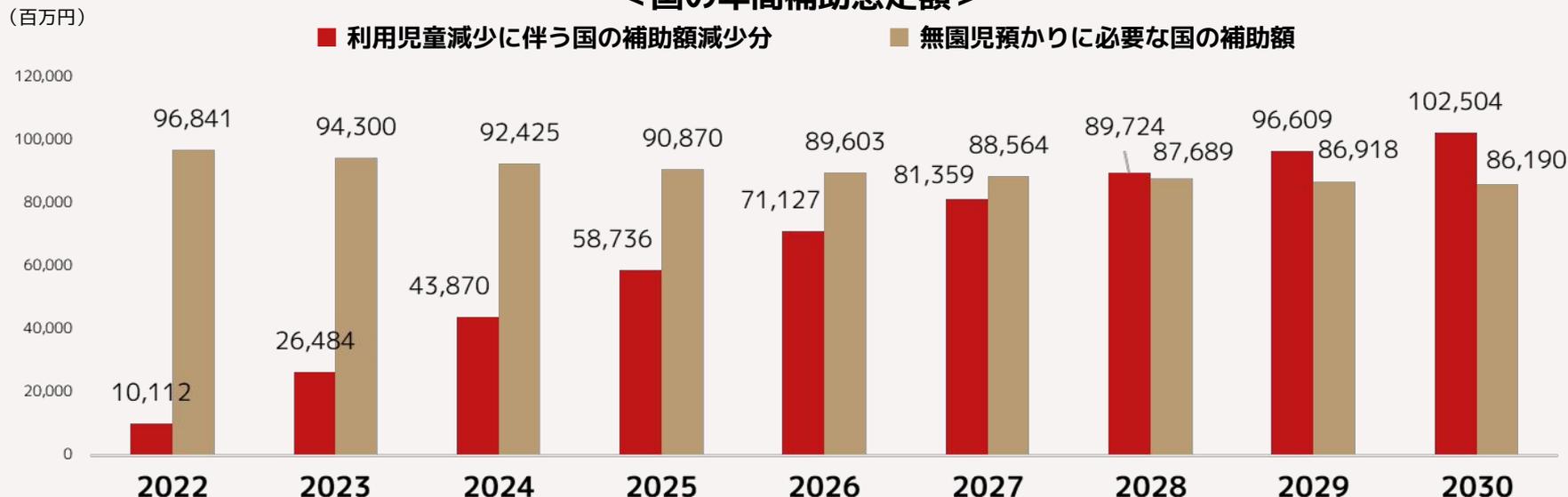
調査結果サマリー | 保育ニーズに関する推計

少子化に伴う国の補助額の減少分で、未就園児（無園児）の定期保育ニーズ*を満たせる

2028年には少子化に伴い減少する国の保育園等への補助額相当分で、

未就園児（無園児）の定期預かりに必要な財源を補うことができる

< 国の年間補助想定額 >



*無園児預かりに必要な国の補助額は、アンケート調査で判明した未就園児家庭の定期利用ニーズを参考に、0歳児は60%・週1日、1・2歳児は60%・週1日、3歳以上児は100%・週2日とした場合、日割りベース（週1日利用であれば公定価格×1/5を施設に支払う想定）で試算。

私たちの提言：保育園を全ての親子のセーフティネットへ

保育園を、従来の「働いている親のための施設」から転換し、

保育を必要とする 全ての子どもたちと親たちのセーフティネット

として開いていくことを提案します。

